

生誕120周年記念

「伊藤彦造展」

～美剣士の血とエロティシズム～



図1「阿修羅天狗」

伊藤彦造は、大正末期にデビューし、昭和40年代まで活躍した挿絵画家です。彼は、剣戟シーンの殺気や、美剣士の魅力をペン画によって濃密に描きあらし、人気を博しました。

人間の心には、「死」を恐れると同時に魅かれもする「希死欲求」という不思議な心性が存在します。「死」に美しさを見だし、性的な陶酔を重ね合わせる心性が存在するのです。彦造描く少年や青年の、死に面した極限状況、傷ついた美しい肉体は、人間の心にある、そのような死への渴望を目覚めさせる悪魔的な魅力を伴い、怖い美しさを秘めています。

2025年9月20日(土)～12月21日(日)
弥生美術館

初公開作品
漫画家・花輪和一先生
ご寄贈

初公開作品
美術史家・山下裕二先生
特別協力



図2 仮題「上杉謙信」

(出典不明)

昭和20～30年代に学童向けの歴史全集に掲載されたと思われる彦造作品の原画。

もともとは『プレイボーイ』などに漫画を連載していた藤尾毅氏が所蔵しており、花輪氏は彼のアシスタントをしていた昭和49年(1974)に譲られた。仲間の漫画家にも彦造ファンは多かったと言い、花輪氏は「この絵の描写はまさに神技。ただただ感服です」と彦造への傾倒を語る。

耽美的な作風、細密な描写など、彼は彦造の魅力を色濃く受け継いだ漫画家の一人と言えよう。



参考図
花輪和一
「髑髏丸」より
©花輪和一



図3「達磨」

美術史家・山下裕二氏の所蔵作品。
氏はこの他にも、彦造が戦犯として収容されていた座間キャンプで、日本人の精神性を示すためマッカーサーに見せようと描いたと思われる日本画を、初公開予定。

見どころ1

漫画文化における彦造の存在 ～彦造無くして日本の漫画文化は存在しえたか？～

血にまつわる彦造のエピソードとして最も衝撃的なのは、昭和7年、神武天皇の立像を描くに当たって、絵具の代わりに自らの血を用いたことでしょう。血の匂いを描いた画家といえは浮世絵師の月岡芳年を思い出しますが、彦造の作風には、芳年の影響が感じられます。芳年の「無残絵」と呼ばれる血まみれの作品の数々……あの血の匂いが、彦造の体質の中にある「希死欲求」的なものと呼応したのではないのでしょうか？



その彦造はまた、後世の漫画家にも多大な影響を与えました。多くの漫画家が彦造のペン画の超絶技巧を賛美し、美剣士の妖しい魅力に惹かれたと語ります。

つまり彼は、浮世絵と、現代の漫画やアニメを中継する存在でもあるのです。幕末のクールジャパン・浮世絵と、現代のクールジャパン・漫画やアニメは、一見異質に見えますが実はつながりのあるもので、その両者の結び目には、大正から昭和初期に活躍した挿絵画家たちが存在します。中でも伊藤彦造の存在は大きいと言えましょう。この度の展示は、その点を意識しながらご覧いただきたいと思います。



左上
図4
伊藤彦造／画
「つくばおろし」
より 昭和3年

左下
参考図
月岡芳年／画
「近世人物誌
武田耕雲斎別室
時子」明治21年

右下
参考図
花輪和一
「赤じ夜」より
昭和47年
©花輪和一

見どころ2 構図へのこだわり



図5「角兵衛獅子」

地下道に閉じ込められた鞍馬天狗が脱出を試みるシーン。投げられた敵が、こちら側に飛び出してきそうに見える描き方。



図6「豹の眼(ジャガーのめ)」

アメリカ大陸を舞台に、インカの財宝をめぐる繰り広げられる冒険物語。ヒロイン・金華が、盲目の音楽師にさらわれるシーン。不安定な構図の面白さに着目。(株式会社 講談社蔵)

見どころ3 滅びの美学



図7「丸橋忠弥めし捕り」彦造は好んで追い詰められた男の悲壮さを描いた。彦造作品の底流には、滅びゆく敗者に心情を寄せる「滅びの美学」がある。

見どころ4 魅力的な女性たち

彦造といえば、戦う武士のイメージが強いのですが、実は様々なタイプの女性を描き分けており、それも彼の魅力のひとつです。

妖艶



図8「ニューカールトンの夜」
ニューカールトンは戦前の上海にあったクラブ。アールデコ調のドレスをまとった女性が妖艶。

鉄火



図9「砂絵呪縛」
肌脱ぎになってキセルたばこを吸う女性。

可憐



図10「豹の眼(ジャガーのめ)」
幻のように浮かぶ、可憐な少女の姿。

◆ 展覧会概要 ◆

「伊藤彦造展」～美剣士の血とエロティシズム～

- 主催 一般財団法人鹿野出版美術財団 弥生美術館
会場 弥生美術館 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3
会期 2025年9月20日(土)～12月21日(日)
展示数 原画・昭和初期の印刷物・日本画等約200点
電話 03-3812-0012(代)
HP <https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>
休館日 月曜日 ただし10/13、11/3、11/24の月曜日は開館。
翌10/14、11/4、11/25の火曜日は休館
料金 一般1200円 大・高生1000円 中・小生500円
(隣接する竹久夢二美術館と二館併せての料金。高畠華宵の常設ルームも含む)
交通 東京メトロ千代田線[根津駅]or南北線[東大前駅] 共に徒歩7分
JR[上野駅]公園口・しのばず口より徒歩20分(東京大学 弥生門斜め前)
駐車場はございませんのでお車でお越しはご遠慮ください。
関連書籍 『伊藤彦造イラストレーション』増補改訂版 河出書房新社

◆ 伊藤彦造プロフィール ◆

明治37年(1904)～平成16年(2004)

大正14年(1925)大阪朝日新聞の「黎明」に挿絵を描いてデビュー。昭和初期の『少年倶楽部』をはじめとした雑誌で活躍。戦中は、愛国心、憂国の情を訴えるため日本画を描いて展覧会活動を行う。戦後は再び『少年画報』等の雑誌で活躍。昭和45年、吉川英治全集の仕事を生らの最後の仕事と定め、引退。

剣豪伊藤一刀斎の末裔として生まれ、幼い頃より励んだ剣の修業が、迫真の剣戟シーンを生んだ。享年100。

◆ 担当学芸員 ◆

中村圭子

連絡先 電話:03-3812-0012
fax:03-3812-0699

◆ 内覧会開催 ◆

9月19日金曜日午後3時～
山下裕二氏が初公開作品について語ります。
皆様のご参加をお待ちします。
別紙内覧会のご案内を同封いたします。

弥生美術館 中村・外館 行

「伊藤彦造展～美剣士の血とエロティシズム～」

写真貸出申込書

写真送付日 月 日 必着

掲載誌／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望のものにチェックしてください。

図 版(作品タイトル、掲載誌、制作年)		ご希望のデータにチェックしてください
図1 「阿修羅天狗」『冒険活劇文庫』昭和 25～26 年 (1950～1951)挿絵原画 伊藤彦造／画 個人蔵		
図2 仮題「上杉謙信」出典不明 昭和 20～30 年代挿絵原画 伊藤彦造／画 花輪和一氏寄贈		
図3 「達磨(だるま)」年代不明 日本画 絹・彩色 伊藤彦造／画 山下裕二氏／蔵		
図4 「つくばおろし」部分 『少年倶楽部』昭和3年(1928)印刷 伊藤彦造／画		
図5 「角兵衛獅子」『少年倶楽部』昭和2～3 年(1927～1928)印刷 伊藤彦造／画		
図6 「豹の眼(ジャガーのめ)」『少年倶楽部』昭和 2 年(1927)挿絵原画 伊藤彦造／画 株式会社講談社／蔵		
図 7 「丸橋忠弥めし捕り」『冒険活劇文庫』昭和 24 年(1949)9 月 挿絵原画 伊藤彦造／画 個人蔵		
図 8 「ニューカルトンの夜」五社堂便箋表紙 大正末～昭和初期 印刷 伊藤彦造／画 個人蔵		
図 9 「砂絵呪縛(すなえしぱり)」『読切豪華版』口絵 昭和 25 年(1950)1月 印刷 伊藤彦造／画 個人蔵		
図 10 「豹の眼(ジャガーのめ)」『少年倶楽部』昭和2年(1927 挿絵原画 伊藤彦造／画 株式会社講談社／蔵		
読者プレゼント招待券 希望する方は枚数をお書きください(5 組 10 名様分まで)		

通信欄

同封のプレスリリースでご紹介している図版 10 点について、データ画像を用意しております。
ご希望の場合は、この申し込み用紙に必要事項をご記入の上、**FAX 03-3812-0699**までお申し込みください。
美術館写真(外観)、伊藤彦造の肖像等を必要とされる場合は通信欄にお書きください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券を 5 組 10 名様分までご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載誌ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただいた際には、お手数ですが掲載誌(紙)をお送りくださいますようお願い申し上げます。

送付先 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3

鹿野出版美術財団 弥生美術館
中村圭子宛 TEL03-3812-0012

伊藤彦造展

～美剣士の血とエロティシズム～

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、弥生美術館では企画展「伊藤彦造展 ～美剣士の血とエロティシズム～」(会期：2025 年 9 月 20 日～12 月 21 日)を開催いたします。

つきましては、下記の通り特別内覧会を行います。当日は本展にご協力いただいている美術史家・山下裕二氏が来館予定です。何卒ご取材賜りますようご案内申し上げます。

謹白

記

【展覧会】 伊藤彦造展 ～美剣士の血とエロティシズム～

【内覧会】 2025 年 9 月 19 日（金）15:00～17:00

(自由観覧／時間内であればいつでも入館できます)

15:15 分頃～(約 30 分間) 開会式とギャラリートーク

【会 場】 弥生美術館 東京都文京区弥生 2-4-3

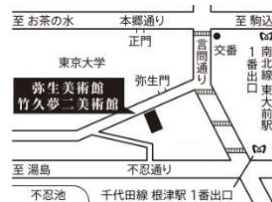
東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び

南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩 7 分

JR上野駅 公園口より徒歩 20 分

* 駐車場はございません。公共の交通機関をご利用ください。

* 併設の竹久夢二美術館も併せてご覧いただけます。



★お手数ではございますが、取材をご希望される場合は 9 月 12 日（金）までに連絡用フォーム(<https://forms.gle/b8q7WujgxmsyFw4J6>)よりお申し込みください。

右の QR コードからもアクセスできます。➡



掲載誌（紙）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。

【送り先】〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-3 弥生美術館 担当／中村宛

【問い合わせ】

TEL 03-3812-0012／FAX 03-3812-0699 弥生美術館 担当／中村・外館